令和４年１１月１６日（水）１１月全校朝会

# この一冊に、ありがとう

暦の上では「立冬」を迎え、もう冬です。ただ、実際の季節感としては「晩秋」といったところでしょうか。この頃になると、年間を通じて日の入りがもっとも早くなります。「秋の夜長」といわれる所以です。部活動の時間も夏に比べれば短くなっていますので、お家でゆっくりする時間を有効に使って、本に親しむ、読書することをおすすめします。

ちょうど今は、読書推進月間にあたります。皆さんは小さな頃から、先生や保護者など周りの大人から、読書の大切さについて繰り返しお話を聞いてきたことでしょう。それは、読書が、皆さんの健全な成長にとって欠かすことができない大切なものであることを、大人たちはみんなわかっているからです。本は、皆さんに言葉や知識を与えてくれるだけではありません。本の言葉に励まされたり、本の登場人物に勇気をもらったりした人もいるはずです。今はコロナ禍で多くの制限がある状況ですが、読書をすることで、その場に居ながらにして、世界中のどこの国の人とも、ずっと昔の人ともつながることができます。やっぱり本にはものすごい力があると思います。

私は、今年度の読書推進月間で「論語と算盤」という本を読み直しました。深名市出身の大実業家（２０２４年度にはデザインが新しくなる１万円札の顔になる）渋沢栄一翁の講演記録等をまとめたものです。栄一翁は約５００の会社設立に関わりましたが、会社は利益を追求するだけでなく、道徳的に正しいことをする必要のあることを説いています。

この本「論語と算盤」の「論語」は２，３年生にとっては、馴染みのあるものだと思います。１年生の皆さんはまだ学習していません。２年生の国語の時間に古典教材として学習します。今から２５００年以上も前の中国の思想家・孔子が弟子たちとの問答を記録した書物が「論語」といわれるものなのです。２，３年生は、数ある問答の中から三尻中学校の生徒に読んでほしい内容を精選した「三尻『令和論語』」が配られ、毎週水曜日には、「朝の論語」の時間と称して、論語の一節を音読していました。（いくつかを途中まで音読。途中からをそらんじさせる。）論語をすらすらと読める人も多いと思います。新型コロナウイルス対応もあり、残念ながら、今年度から「朝の論語」は実施しません。でも、これからは、道徳の時間の資料として、三尻中学校の財産である「三尻『令和論語』を活用していきます。１年生にも、論語に触れる機会を設けたいと考えています。

私が読んだ「論語と算盤」では、１００年前に日本の近代化を進めた渋沢栄一翁の考え方に触れることができました。また、２５００年以上前の中国の思想家・孔子ともつながることができました。一冊の本のおかげさまです。そういえば、今年度の読書週間の標語が、各教室の掲示板に掲示してあったと思います。「この一冊に、ありがとう」という標語です。そう考えてみると、私自身、これまでどれほどの本に「ありがとうございました」と感謝しなくてはいけないのか…、数えることなんか、もうとてもできそうにありません。

教育相談期間後、朝の読書の時間が再開すれば、皆さんの教室で、私も一緒に本を読みたいと思っています。楽しみにしています。

熊谷市立三尻中学校長　　田沼良宣